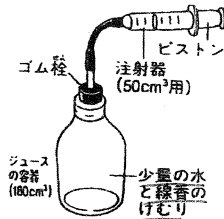


第2章 雲のでき方と前線

1. 雲のでき方

(1) 雲の発生の原理

	強くひいた時	強く押した時
空気の体積	膨張する	収縮する
空気の温度	下がる	上がる
容器の様子	くもる	くもりが消える

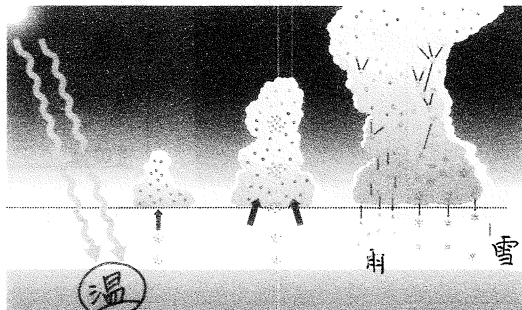


○ 雲の発生

- ① 空気が上昇する ← 雲の発生するきっかけ(場所)
- ↓
- ② 気圧が下がる ← 上にある大気が少ないから
- ↓
- ③ 空気が膨張する ← 空気を押す力が弱くなるから
- ↓
- ④ 空気の温度が下がる ← 膨張するのに熱を使うから
- ↓
- ⑤ 露点に達する ← 雲の中の湿度は 100 %
- ↓
- ⑥ 水蒸気が水滴や氷の結晶となる (雲)

<雲のでき方の例>①太陽に地面がよく熱せられているところ

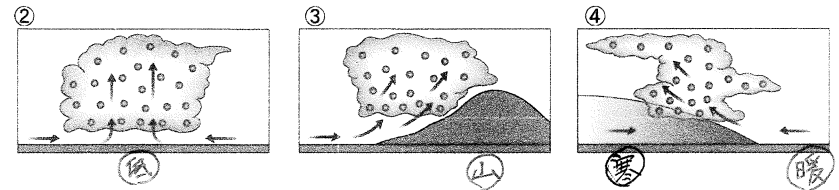
太陽



←雲のできる高さ

(2) 雲のできるところ (空気が 上昇 するところ)

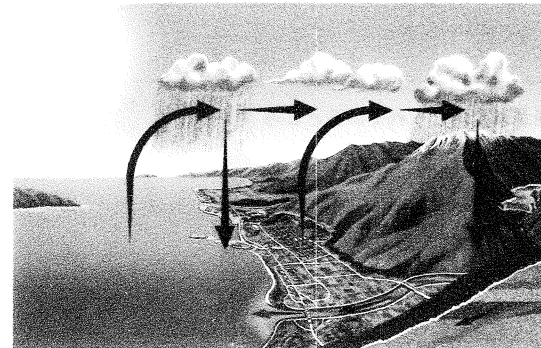
- ① 太陽に 地面がよく熱せられている ところ (左のページ下の図)
- ② 低気圧 の中心
- ③ 山の斜面 にそって 風が吹き上げる ところ
- ④ 暖気 と 寒気 が接しているところ (←これを 前線 という)



(3) 水の循環

水の循環

…地球上の水の一部は 太陽のエネルギー を受けて地球の表面と大気の間を絶えず循環している。



水の存在する割合

海 97.4 %

陸地 2.6 %

氷河 2.0 %

地下水 0.6 %

その他 0.02 %

大気 0.001 %